

学校法人阪南大学 第1期中期計画（2020.4/1～2025.3/31）総括

1. 各取り組みのまとめ

<法人>

【学園運営の充実に向けた取組】

- 実施項目：(1)ガバナンス体制の強化、(2)事務機構等の見直し、(3)業務効率の向上と労働環境の整備、(4)人材の確保と育成、(5)健全な財政基盤の堅持、(6)奨学金・減免制度の改善、(7)教育環境充実に向けた施設・設備の整備、(8)危機管理体制の点検実施

●まとめ：

法令改正への適切な対応と学園運営の透明性向上、迅速な意思決定・業務遂行を通じ、堅実かつ健全な運営を実現しました。全学的な業務効率化・省力化を推進し、組織の自律性向上と労働環境整備を前進させるとともに、持続的で柔軟な組織運営基盤の確立を進めました。2024年度には新校舎の竣工と学部再編・新学部設置を行いハード・ソフトの両面で教育の充実を図りました。

<阪南大学>

【教育活動の充実に向けた取組】

- 実施項目：(1)学部教育の充実と質の保証、(2)大学院の充実、(3)教育組織の充実、(4)地域連携の推進、(5)企業連携の推進、(6)生涯学習の充実

●まとめ：

学部教育の充実と質保証を重点に、初年次教育の強化、アクティブ・ラーニングの促進、AI・データサイエンス教育体制の整備を推進しました。また、UNIPA（学内ポータル）の導入などICT環境を整備し、対面とオンラインを併用した学修環境を構築しました。地域・企業連携においては、自治体等との連携を拡大することで教育・研究成果の社会実装を強化しました。生涯学習分野では、リカレント教育の拡充に努めました。

【研究活動の充実に向けた取組】

- 実施項目：(1)研究の推進、(2)研究支援体制の充実、(3)図書館機能の充実、(4)地域連携の推進、(5)企業連携の推進

●まとめ：

多様な研究の推進に向けて、研究環境の整備と研究倫理の徹底を進めました。研究支援体制を強化し、AI・データサイエンス分野の研究推進、外部資金の獲得、研究成果の発信において一定の成果を上げました。図書館では利用環境を整備し、電子書籍等の拡充を推進しました。地域連携においては、オンラインの活用や新規連携先の開拓、セブン&アイ・クリエイトリック様等との協働、大学間連携を通じて学生の研究機会を創出しました。

【学生支援活動の充実に向けた取組】

- 実施項目：(1)修学に関する支援・充実、(2)学生生活に関する支援・充実、(3)就職に関する支援・充実、(4)卒業生との連携、(5)保護者との連携

●まとめ：

学生支援活動の充実に向けてオンライン教育を整備し、コロナ禍においても学修機会を確保しました。また、ICTツールの活用により学修状況と学生ニーズを可視化することで、個別指導を強化しました。課外活動ではオンラインでの活動を展開し、外部機関との連携を通じて、学生生活の様々な側面を支援しました。キャリアサポートにおいては、就職支援、資格取得支援、企業連携を強化し、オンラインも併用することで、就職活動支援の強化を図りました。

【学生受入、広報活動の充実に向けた取組】

- 実施項目：(1)アドミッション・ポリシーに基づく多様な入学試験の実施、(2)大学広報機能の充実
- まとめ：

学生受け入れの充実に向け、入試制度の改革、広報活動の強化、留学生受け入れ環境の整備、高大連携の拡充を推進しました。これにより、多様な入学試験の実施と志願者層の拡大を図りました。また、大学広報活動においては、専門スタッフの配置、Webメディアの活用、学生広報チームの育成を通じて、効果的な情報発信体制を構築しました。

【学園運営の充実に向けた取組】

- 実施項目：(1)自己点検・評価活動の実質化、(2)大学運営体制の整備、(3)社会的要請の達成、(4)施設・環境の整備
- まとめ：

学園運営の充実に向け、自己点検・評価においては、内部質保証システムを整備し、PDCAを徹底しました。また、各委員会間の連携を促し、評価結果を分析・活用する仕組みを構築しました。大学運営体制においては、教職員SDを推進するとともに、コンプライアンス研修の拡充と情報開示を進めました。施設・環境面においては、キャンパスの一元化と福利厚生施設の改善を進め、教育・研究環境の向上を図りました。

<阪南大学高等学校>

【教育活動の充実に向けた取組】

- 実施項目：(1)生徒が主体的に学習する意欲を引き出す授業の研究と推進、(2)教職員の教育力の向上、(3)生徒の自発的な進路選択の奨励と支援
- まとめ：

新学習指導要領の学年進行・完全実施を受け、ICT活用と評価方法の見直しを進め、授業改善を推進しました。タブレット、学習支援ソフト、オンライン教材・ツールを導入し、グループワークや探究合宿、SDGs研究、高大連携授業など多様な学習を計画的に実施しました。

【生徒支援活動の充実に向けた取組】

- 実施項目：(1)校則の遵守、(2)いじめの防止、(3)基本的生活習慣、社会的マナー、保健衛生習慣の確立、(4)学校行事やクラブ活動への積極的な参加の啓蒙、(5)国際交流の推進、(6)時代に相応しいクラブの創設
- まとめ：

登下校時のマナー、服装・身だしなみ等の生活指導を継続し、規範意識の定着を図りました。また、スクールカウンセラーの配置をはじめ、校内各部署および外部関係機関との連携を強化することで、生徒が安心して学ぶことのできる支援体制の整備を進めました。クラブ活動はコロナ禍でも感染対策の上で継続し、入部率は上昇、全国・近畿大会出場や各部の入賞等の成果につながりました（サッカー、男子バスケット、空手道、軽音楽部等）。

【生徒受入、広報活動の充実に向けた取組】

- 実施項目：(1)至当な入学試験の実施、(2)高校広報機能の充実
- まとめ：

大阪府公立中学校卒業生数が減少する中、教職員一丸となって広報活動に取り組み、入学者数は定員を上回り、一定の成果を上げました。

【学園運営の充実に向けた取組】

- 実施項目：(1)評価活動の実質化、(2)社会的要請の達成、(3)施設の整備
- まとめ：

コロナ禍においてオンライン学習・ICT活用を推進し、家庭との緊密な連携を重視した学園運営に努めました。学校評価アンケートを基にPDCAで課題を分析・改善し、観点別評価の導入も含め教育活動の質保証に向けた取り組みを進めました。

2. 第2期中期計画（2025.4/1～2030.3/31）に引き継がれた課題

<法人>

- ・事務機構、人事制度についての継続的な見直し
- ・教職員の適正な労働時間と過重労働防止の取り組みの継続的な実施
- ・多面的な収入確保に向けた具体的な方策の検討

<阪南大学>

- ・リカレント教育の受講者増に向けたコンテンツ充実と広報強化
- ・研究業績数の改善および増加に向けた施策の強化
- ・図書館入館者の利用促進策の強化
- ・資格講座受講者の支援施策の強化

<阪南大学高等学校>

- ・ICTのさらなる活用やわかりやすい授業を展開するための授業改善、評価方法の工夫
- ・国公立大学、難関私立大学の合格者増加
- ・自主的な学習時間の確保を促す取り組みの推進

以上